

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895  
FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

### 企業倫理とリーダーシップ 稲盛 和夫 (京セラ名誉顧問)

1. 歴史をみれば明らかなように、国家をはじめとして、どのような集団であれ、その盛衰はリーダーによって決まってきました。中国の古典に「国は一人を以て興り、一人を以て亡ぶ」という言葉があるように、人類の歴史はまさにリーダーの歴史とも言えます。これは企業についても言えることです。企業リーダー、つまり経営者の行動の正否は、企業の繁栄やその従業員の運命を決します。特に現在、企業リーダーが関与した企業不祥事が頻発し、それによって著名企業といえども淘汰されています。
2. 企業の不正の原因として、企業や経営者をして不正に走らせる現在のシステムの問題を、最初に指摘することができます。特に近年の米国企業において顕著な、経営者への高額な報酬や莫大な額のストックオプションは、経営者のモチベーションとなる半面、企業内のモラルを低下させ、経営者を堕落させる一面もあると、危惧します。
3. 経営者が業績に応じて受け取る、いわゆるインセンティブの必要性は否定しませんが、しかし、それがあまりに高額であれば、経営者の精神を麻痺のようにむしばみ、その倫理観を麻痺させてしまいます。  
(参考:「週刊ダイヤモンド」2019年3月16日号)

## 人事・労務について

### 働き方の今 (現代) と昔 (バブル時代)

1. 日本は、1980年代後半バブル景気の真っ只中だった。海外からエコノミックアニマルと評された日本人は、労働時間の長さを競った。終業後も帰宅せず、「5時から男」に姿を変え、寝る間を惜しんで上司や同僚と飲みに繰り出した。働いた分だけ残業代は支給された。拘束時間の長さは、自分がどれだけ必要とされているかの証しだった。時間も心も企業に捧げたビジネスマンこそが、右肩上がりの経済成長を築いたのだ。
2. 現代に目を移すと、京都のある店は、一日100食のステーキ丼を売り、午後6時には全員帰宅する。売り上げや多店舗展開は捨てた。従業員の働くインセンティブは給与アップではなく、早く売り切り、早く帰ること。絶対に譲れないのは、「家族で晩ご飯を一緒に食べること」と経営者はいきる。

(参考:「週刊東洋経済」2019年3月16日号)

## 幹部・管理者の心得

### 徳を修める上で大事な心得

1. 古典に教えがある。「皇天は親なし。ただ徳をこれ輔(たす)く」。天は人を選んで親しくしたりしない。ただ徳のある人を助ける、と「書経」にある。老子も同じことをいう。「天道は親なし。常に善人に与(くみ)す」。東洋の古典は一致して運と徳は関連している、と説いている。その人が持っている、あるいは培ってきた徳分に応じて、人はそれにふさわしい運命に出逢っていく、と教えている。
2. 徳を修める上で大事な心得を「易経」も説いている。「身に反(かえ)りて徳を積む」。困難に遭う。失敗する。そういう時は自分に原因がないかを反省する。それが徳を修めることになるという。松下幸之助氏はこの言葉を生涯実践した人である。「ぼくは物事がうまくいた時は皆のおかげ、うまくいかなかった時はすべて自分の責任と思った」。(参考:「致知」2019年4月号)

## 古典に学ぶ

### 不勉強なる国民の集まりは繁栄発達しない

(解説) 予は本年(大正2年)もはや74歳の老人である。すべて人は老年となく青年となく、勉強の心をうしなってしまうと、その人は到底進歩発展するものではない。同時にそれらの不勉強なる国民によって営まれる国家は、到底繁栄発達するものではない。予は平成自ら勉強家の積りであるが、実際一日といえども職務を怠ることをせぬ。(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)